

---

# ムギとひが、そのに。

雲丹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ムギとひが、そのに。

### 【コード】

N9020H

### 【作者名】

雲丹

### 【あらすじ】

穂麦と比嘉は義理の兄妹。今日もなんとなしに過ごしていたところ、比嘉の友人が来たようで。

「ほーむぎ、ほーむぎ」

あ、どうも、比嘉です。

夏休みも終わりを迎え、久々に学校に行った穂麦はえらいご機嫌なようです。

このとおりなんと歌を歌ってるのです。

この曲はあれだな。あのお猿さんの曲だな。だがどう考えても替え歌だ。まあ聴いてみよう。

「ほーむぎ、ほーむぎ」

んでこの後に『お猿さんだよー』と続……

「お人間だよー」

かない！ 『お人間』って！ いやそうなるかもしれないけどさ。

「ほーむぎ、ほおむぎっ！」

力強い歌い方だな。

「おめめはどっちかって言うと丸いー」

語呂が全く合ってませんな。

「ほむぎっ、ほむぎっ！ ほむぎい、ほむぎっ！」

力強すぎて顔が怖いぞ。

「しーっぱはあ……ない！」

はい知ってます。

「ほーむぎ、ほーむぎっ！」

ついにラストだ。

「おさーる……あつ、お人間だあよー」

ぐぐぐぐ。とてつもなく。

「ふう。歌った歌ったー」

「歌といつかなんかの呪文みたいだったぞ」

「ジュゴン！？」

「じゅ・も・ん！」

「なあんだ……」

なんか知らんがめちゃくちや落ち込んでる。僕そんなに悪いこと  
言った？

なんかえらいテンションの上下が激しいな……

『ピンポン』

と、その時、インターホンが鳴った。

ちよつと説明しておく、僕は一人暮らしをしていて　まあ今は二人だけど　割と良い感じのマンションに住んでいる。親のすねかじり万歳である。

sonでまあ割と良い感じのマンションなので、セキュリティも良い感じなのだ。だから、エントランスにはちゃんとマンションの住人が開閉ボタンを押すか、ドアを開くための番号を入力してからボタンを押すかしないと開かないようになっている自動ドアがあるのだ。

sonでこのインターホンはそのエントランスから部屋番号を押した時にその住人に誰かが訪ねてきたことを教えるためのものなのだ。

はい、説明終わり。

まあつまり誰か来たってことだな。

僕はゆっくりと画面を見て訪問者の顔を見た。

！

久々に見る顔だった。

僕はすぐにエントランスに繋がる音声の受話器を取った。

「久しぶりだな。どした？」

「いや、あの、たまたま近くを通ったから……」

「そか。まあ入れよ」

そう言っ僕は開閉ボタンを押した。

「ひが兄！ 誰か来たのか!？」

「ん？ ああ、僕のちっこい頃からのともだ

『りんごーん』

あ、ちなみにこれは各部屋に設置されたインターホンの音ね。  
ってか早っ！ こころ階なのに、エレベーターないのに早っ！

「うちが出てくるー!」

「おお

ん？ あれ？ あいつにムギがいること言ってたっけ？

「づぎゃあああああ!」

「うおおおお!」

……ミスった。

ドタドタと2つの足音が廊下を走るのが聞こえてきた。

「ひ、ひ、ひがひがひが兄！ 女だ！ 女が攻めてきた!」

攻めてきたっオィ。

「ひ、ひーちゃん！ 誰この子！？ まさか娘！？ 息子！？ 姪  
兄祖母従妹鳩子！？」

……やかましい。実にやかましい。

「ムギ、そいつは僕の昔からの友達の紗季ひなだ。んで紗季、コイツは  
僕の義理の妹になってしまった穂麦だ」

「昔からの友達って……おっさん馴染みみたいなもんか！？」

「義理の妹って何！？ なんで突然そんなの出来たの！？」

あーだこーだとわめく二人。まあこうなるだろうとは思ってたけ  
ど。

「おっさん馴染みじゃなくて幼なじみ、な。んでムギは母さんが拾  
ってきた」

「おっさん馴染みはオサナ・ジミーなのか！」

「拾ってきたって猫じゃあるまじろ！ ……あっ、あるまいし！」

もう何なのこの二人。バカなの？ そう、バカなの。

「はい、二人とも黙れ」

「いやでもジミーさんが」

「黙れ」

「でもねアルマジロって」

「黙れ」

「……………」

「……………」

よし、黙ったな。

「はい、じゃあ二人とも、自己紹介しようか」

「それじゃ、年上の私からね」

うん、切り替え早い。

「えっと、私は愛敬あいきょう 紗季さき。性別は見ての通り女性。性格は」

「天然」

「天然って言うなー！ 私はちょっとあわてんぼさんなだけ！」

あわてんぼさんって……………中学生の口から出る言葉か？

「えっと、それで、年齢は14歳華の中学2年生！ 趣味はテニスで特技は家事全般！ 将来の夢はあ……………えっとお、素敵なお嫁さんになること、かなつ。キャツ、言っちゃった！」

『キャツ』じゃねーよ。



「はい、じゃあ次ー」

「ええ！？ 無視！？」

はい無視無視。

「名前は、穂麦だ！ 性別はー……何だ！？」

「女だろ」

「なんでわかる！？」

「いや……そりゃ見た感じで」

「それじゃわかんない！ どうやって見分けるの！？」

「えつとなあ……こればかりは紗季にパス」

「ええ！？ えつと……そ、それはあ」

顔を赤くしてこっちチラチラ見るのやめてくれませんか紗季さん。

「大人になつたらわかるの！」

おお、大人の理屈だ！

「そうかー。早く大人になりたくなつたぞ！」

「そりゃあ良かった」

「そんでな、年は……いくつだ!？」

「なな」

「趣味は……なんだ!？」

「食べることじゃねえの?」

「特技は……なんだ!？」

「紙飛行機作るの上手いよな、ムギ」

「将来の夢は……なんだ!？」

「怪獣になるんだろ」

「それだそれだ! さき、うちはこんな方だ!」

「……ほとんど他己紹介だったような」

ほとんどってか完璧にだよな。しかも最後自分で自分のことを『こんな方だ』って言っちゃったしね。

「というわけだ。ま、ゆっくりしてけよ紗季。僕テキトーに飲み物と菓子取ってくるから」

「あつ、ありがと! ひーちゃん!」

……………。

僕はそこで足を止める。

「あのさあ、紗季」

「なになに!?! 何でも言っつてよ何でもかんでいだ」

「『ひーちゃん』って呼ぶの、やめない?」

思わずポケを遮つて言っつてしまつたが、それを聞いて紗季は固ま  
つてしまつてゐる。

「え? なんで!?! ひーちゃんはいつまでもひーちゃんなのにつ  
」!

「いや、だつて僕ももう大学生だし、子供じゃないんだからさ」

「でもひーちゃんはひーちゃんのままじゃん! なんで嫌なの!?!  
私のこと嫌いになつたの!?! うわーん!」

「えつ、ちよつと、紗季……」

「な、な」

「え、なんだよムギ」

「ひーちゃんだろ?」

「え?」

「ひーちゃんだろ?」

「いや、あの」

「ひーちゃんだろ？」

「……はいそうです」

そう言つとたつたーとムギは紗季のもとへと駆けていった。

「ひが兄はひーちゃんだって！」

「やったあ」

切り替え早っ！ やっぱり切り替え早っ！

はあ……もう付き合いきれん。茶菓子と飲み物を取りに行こう。

「あれ？ この辺にあつたと思つてたんだけど……」

と、僕が茶菓子を探して漁っていると、二人の会話が聞こえてきた。

「すごい、はくしょんの演技だつたな！ さき！」

「はくしん、でしょー。それに演技つて言つちやっダメでしょ！ ひーちゃんに聞こえたら……」

「でもあの泣き真似はノーベル賞ものだ！」

「えへへ……そうかな……」

「うむ！ ライト兄弟と親友になれるぞ！」

「えへ、そう？ でもひーちゃんには言っちゃダメだからね。ひーちゃんすぐ怒るから」

「そうかー。でもそこにひが兄いるんだ」

「え？」

こっそり、ってか結構普通に近づいたんだけど、全く気づいてない様子の紗季の後ろで僕はにっこり笑顔で立っていた。

「あは、あははは……」

「ははははは」

「おお！ 二人とも楽しそうだな！」

「う……うん！ 笑顔がいちば」

「泣き真似ってどういうこったあああ！」

「うぎゃあああああ！」

「どうしたひが兄！ 楽しそうな！ うちも叫ぶぞ！ うおおおお  
「！」

逃げる紗季を僕が追いかける。そしてそれを見て意味もなくムギが叫ぶ。

そんな感じで今日もやかましく過ぎていきましたとぞ。

(後書き)

読んでいただき、ありがとうございました！

『ムギとひが。』の続編でしたが、どうだったでしょうか……？

評価・感想いただけたら嬉しいです！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9020h/>

---

ムギとひが、そのに。

2010年10月19日12時44分発行